



りすのナトキンのおはなし

ビアトリクス・ポター 作・絵
いしいももこ 訳

福音館書店 2002年（初版1973年） 700円

りすのナトキンは、トインクルベリという兄さんや大勢のいとこたちと湖のそばの森に住んでいました。ある秋、りすたちは、湖の真ん中にあるふくろうじまに、木の実を採りに出かけました。りすたちは、島に住むふくろうのブラウンじいさまに丁寧にあいさつをしましたが、生意気なナトキンは、じいさまの前でふざけてなぞかけ歌を歌ってばかりでした。6日目、不作法なナトキンは、とうとうブラウンじいさまにつかまり、命からがら逃げ出した時にしっぽがちぎれてしまいます。

このお話は、ビアトリクス・ポターが愛した湖水地方が舞台となっており、その美しい景色が柔らかな色調の水彩画で描かれています。「ピーターラビットの絵本」シリーズに登場する動物たちは、少女時代から小動物の観察やスケッチをしていたポターの厳密な観察眼に裏付けられ、写実的にいきいきと描かれています。シリーズは「ピーターラビットのおはなし」など24冊あり、大人のてのひらにおさまるほどの小さな絵本で、100年以上子どもたちに愛され続けています。